

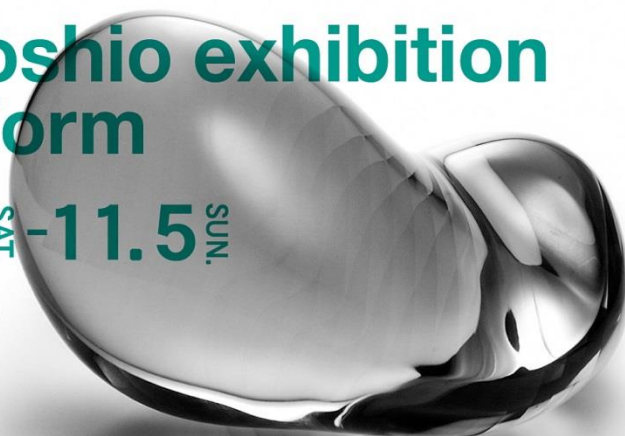
家住利男

削 り の 形

IEZUMI Toshio exhibition Grind to Form

2017.7.22 SAT. - 11.5 SUN.

富山市ガラス美術館 3階 展示室3
Toyama Glass Art Museum 3F Gallery 3



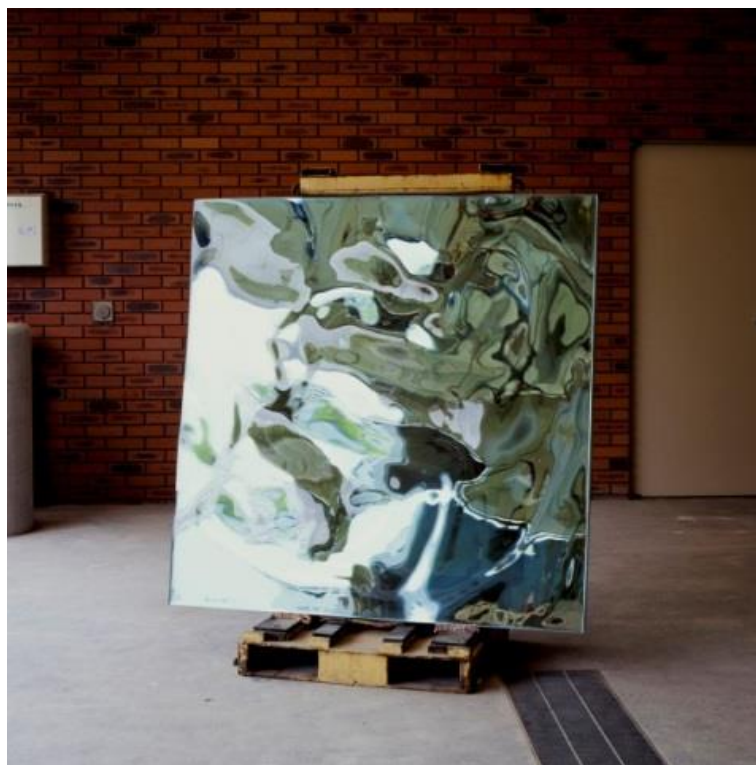
主催：富山市ガラス美術館／後援：富山新聞社、北國新聞社
organized by: Toyama Glass Art Museum/Supported by THE TOYAMA SHIMBUN, THE HOKKOKU SHIMBUN

- 展覧会名 家住利男 削りの形
- 会 期 2017年7月22日（土）— 11月5日（日）
- 会 場 富山市ガラス美術館 展示室3（3階）
- 出品点数 約60点
- 開場時間 午前9時30分から午後6時まで（金・土曜日は午後8時まで。入場は閉場の30分前まで）
※初日のみ午後1時から開場
- 閉場日 第1、第3水曜日
- 観覧料 一般700円（500円）大学生500円（300円）
「アン・ヴォルフ アンダンテ」展との共通観覧券
一般1,000円（800円）大学生800円（500円）高校生以下は無料
※（ ）内は前売り・20名以上の団体
※1 前売りは共通観覧券（一般）のみ ※2 本展観覧券で常設展もご覧いただけます
- 前売り券取り扱い（一般のみ）「アン・ヴォルフ アンダンテ」展との共通観覧券
アーツナビ、アスネットカウンター、TOYAMA キラリ総合案内（1F）
- 主 催 富山市ガラス美術館
- 後 援 富山新聞社、北國新聞社

1. 展覧会概要

家住利男（1954ー）は、東京ガラス工芸研究所でガラスによる作品制作を学び、板ガラスという素材とめぐりあいます。以後、板ガラスを重ねる、接着する、削る、磨くという工程を経て作品を制作してきました。試行錯誤を繰り返す中で家住は、石彫に用いるハンドグラインダーをガラスへと応用し、自身の手で削り磨く方法を編み出します。この方法により、家住は削られてゆくガラスの感触を確かめながら、自らの造形感覚をダイレクトに反映させた作品を生み出してきました。彼の手により削り磨かれたガラスの表層は水面のように揺らぎ、かたちに大きな広がりや量感をもたらします。さらに、光が透過あるいは反射されることで不可思議な像を映し出してゆくのです。

本展では、初期から取り組む「表面」シリーズをはじめ、覗き込むうつわ状の造形「Vessel（ベッセル）」、壁面から空間を映し出す「Projection（プロジェクション）」、空間の中で自立し、様々な動きをみせる「Move」（ムーヴ）、深く青みを帯び、豊かな量感を湛える「Form（フォーム）」シリーズなど渾身の作品約60点を展示します。また、創作の基礎となるマケット（試作品）や削りのための道具類も併せて紹介し、家が30年近くガラスと対峙する中で展開する、ユニークな作品世界をみつめます。



《表面》 1994年 作家蔵

2. 作家略歴、展覧会歴、パブリックコレクション

- 1954 栃木県に生まれる。
1985 東京ガラス工芸研究所を卒業する。
1995-1999 倉敷芸術科学大学 芸術学部講師に就く。
1999-2004 倉敷芸術科学大学 芸術学部助教授に就任する。
2004-2016 倉敷芸術科学大学 芸術学部教授に就任する。
現在 神奈川県スタジオで作品制作を行う。

主な個展

- 1985 立体ギャラリー射手座／京都
1986 ギャラリーGenkai／東京（'87、'90、'92、'93）
1992 アートスペース虹／京都（'93、'94）
1995 ギャラリー仲摩／東京
乾ギャラリー／栃木（'99）
1996 AD&A ギャラリー／大阪（'01）
1997 アトリエ・ウノ／東京（'99、'00、'04）
1998 Chappell Gallery／ボストン、マサチューセッツ州、アメリカ（'00）
1999 コンテンポラリーアート NIKI／東京
2002 Chappell Gallery／ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ（'04、'06、'08）
2004 ギャラリーたむら／広島（'09）
2016 三木市立堀光美術館／兵庫

主なグループ展

- 1997 「THE GLASS SKIN ガラスの新世紀-世界 20 作家の挑戦」北海道立近代美術館／北海道；
コーニングガラス美術館／ニューヨーク、アメリカ；デュッセルドルフ美術館／デュッセル
ドルフ、ドイツ
「Made in Japan」エーベルトフト・ガラス美術館／エーベルトフト、デンマーク
1999 「家住利男×高橋禎彦」瀬戸新世紀工芸館／愛知
「日本のガラス 2000 年-弥生から現代まで」サントリー美術館／東京；
サントリーミュージアム（天保山）／大阪
2000 「Millennium Glass」Kentucky Art and Craft Foundation／ケンタッキー、アメリカ
2001 「2001 Contemporary Glass Exhibition」北京美術館／中国；上海美術館／中国
2003 「Outspoken Glass 遠慮のないガラス-今日の日本から」北海道立近代美術館／北海道；
岡山県立美術館／岡山
「前進する工芸」広島市まちづくり市民交流プラザ・ギャラリー／広島；
田辺市立美術館／和歌山
2014 「iGlass2014-Japanese Contemporary Glass Art」Levant Art /上海、中国
2016 「家住邦男・利男展」Arte Hoy Galeria／メキシコシティ、メキシコ
2017 「板ガラスの表現 ～広がる形、無限の可能性～」能登島ガラス美術館／石川

主なパブリックコレクション

【日本】

東京国立近代美術館／東京、北海道立近代美術館／北海道、金沢 21 世紀美術館／石川、岡山県立美術
館／岡山、栃木県立美術館／栃木、サントリー美術館／東京、石川県能登島ガラス美術館／石川、足
利市立美術館／栃木、富山市ガラス美術館／富山、黄金崎ガラスミュージアム／静岡

【アメリカ】

コーニングガラス美術館／コーニング、ニューヨーク州、Museum of Art and Design／ニューヨーク、
ニューヨーク州、ボストン美術館／ボストン、マサチューセッツ州、Museum of Art and Archaeology /
コロンビア、ミズーリ州、Newark Museum of Art /ニューアーク、ニュージャージー州、Los Angeles
County Museum of Art／ロサンゼルス、カリフォルニア州、MFAH The Museum of Fine Art／ヒュース
トン、テキサス州、ヘンリー・フォード博物館／デトロイト、ミシガン州

【スペイン】 Real Fabrica de Cristales La Granja／ラ・グランハ

3. 展覧会の見どころ

(1)板ガラスの積層

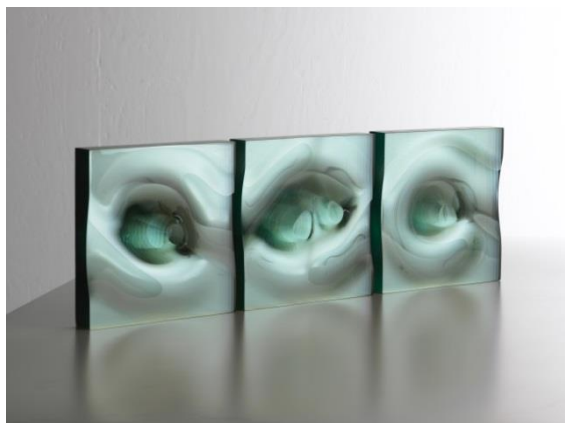
1980年代より家住は板ガラスを重ねることにより生まれるガラスの色や内部空間に興味を持ち、板ガラスの積層でブロックを作り、組み合わせる作品を制作しました。ガラスブロックを垂直方向や、水平方向へと自在に組み合わせ、大きなものでは4mもの作品を制作しています。本展では、彼が実寸大で制作する前段階で作る、マケット(試作品)を展示いたします。工業製品である板ガラスの透明で無機質な素材感、独特の色と向き合いながら制作したものです。



《光と水》 1989年 作家蔵

(2)ガラスを削る

1990年代に入り、家住はハンドグラインダーという石彫などに用いる機械工具で、積層したガラスの表面を削り磨く試みを始めます。もともとガラス用ではなかった機械工具をガラスへと応用するために、試行錯誤を繰り返しながら作品を制作しました。



《表面》 1994年 作家蔵

このように制作された「でっぱりとへこみ」シリーズや「表面」シリーズでは、板ガラスの積層による直方体を削りみがき、表面に柔らかな動きをみせる凹凸が表されています。これらの作品群には熱線反射板ガラスが加えられており、光は透過することなく凹凸に沿って反射し、作品に不思議な像が映し出されます。家住はハンドグラインダーでガラスを削るという方法を編み出すことで、自らの表現に新たな可能性を切り拓いたのです。

(3)削りの形

家住はハンドグラインダーの使用による削りの技術を高めることで、様々なシリーズの作品を制作します。覗き込む器状の造形「Vessel ベッセル」シリーズ、壁面から空間を映し出す「Projection プロジェクション」シリーズ、空間の中で立ち上がり多様な動きをみせる「Move ムーヴ」シリーズ、深く青みを帯び、豊かな量感を湛える「Form フォーム」シリーズなどの作品群がつぎつぎと生み出されました。一つひとつは家住の手により丹念に削り磨かれることで表された形です。ハンドグラインダーの使用は、彼の豊かな感性をダイレクトに形に反映させることを可能としました。柔らかく透き通りユニークな動きをみせる形を覗いてみてください。家住の魅惑的な作品世界へと引き込まれてゆくことでしょう。



《M.130102》 2013年 作家蔵

※掲載されている作品画像の撮影者は全て家住利男である。

4. 関連イベント

【1. アーティストトーク】

- 日 時 7月22日(土) 14:00～
- 会 場 レクチャールーム(富山市ガラス美術館 6F)
- 料 金 無料(ただし、入場には本展観覧券が必要です)
- 定 員 60名(先着順)

【2. 学芸員によるギャラリートーク】

- 7月29日(土)、8月12日(土)、8月26日(土)、9月9日(土)、9月23日(土・祝)、10月7日(土)、10月21日(土)、11月5日(日)
- 各回14:00～ (7月29日(日)のみ15:00～)
- 会 場 富山市ガラス美術館2階ロビー
 - 料 金 無料(ただし、入場には本展観覧券が必要です)

○関連イベントについて事前申し込みは不要です。

5. 出版刊行物

展覧会カタログ「家住利男 削りの形」

定 価 1,600円(税込)

2017年7月22日発刊(予定)

取り扱い: TOYAMA キラリ(富山市ガラス美術館) 2階ミュージアムショップ



6. 広報用画像

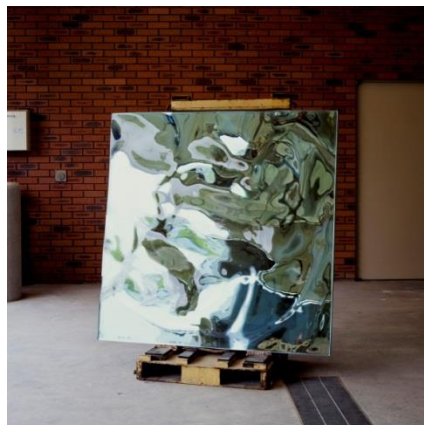
画像1～6を広報用に貸出いたします。

ご希望の方は、別紙（7ページ）の画像貸出し申請書の使用条件をご確認いただき
EメールかFAXにて富山市ガラス美術館広報担当へ申請書をお送りください。

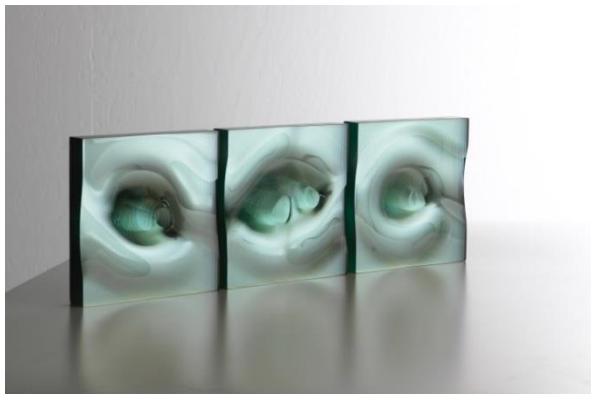
E-mail : bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp FAX : 076-461-3310



1 《光と水》 1989年 作家蔵 撮影：家住利男



2 《表面》 1995年 作家蔵 撮影：家住利男



3 《表面》 1994年 作家蔵 撮影：家住利男



4 《M.130102》 2013年 作家蔵 撮影：家住利男



5 《M.130401》 2013年 作家蔵 撮影：家住利男



6 《F.160201》 2016年 作家蔵 撮影：家住利男

年 月 日

(宛先) 富山市ガラス美術館長

担当者： _____

Tel： _____ Fax： _____

E-mail： _____

住所： _____

団体名： _____

富山市ガラス美術館 画像貸し出し申請書

次のとおり、掲載用素材として企画展「家住利男 削りの形」の画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名： _____

2. 媒体種別：TV 新聞 雑誌 フリーペーパー 電子書籍 WEB サイト 携帯媒体
その他（ _____ ）

3. 掲載の趣旨
別紙のとおり（媒体資料を添付してください） _____

4. 掲載（放映）日時： _____

5. ご希望の画像番号： _____

○作品に文字やほかのイメージを重ねることはできません。また、縦横比の変更やトリミング、キャプション等の文字が写真にかぶらないようご配慮をお願いします。

○作品掲出には指定するキャプションを必ず入れてください。

○作品画像の2次使用はご遠慮ください。

○商品のPR等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。

○校正ゲラの段階で情報の確認をさせていただきます。

○記事が掲載された場合はDVD、掲載紙、誌を一部ご寄贈いただきますようお願いします。

申請書送付先：富山市ガラス美術館広報担当 E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Fax：076-461-3310